

笑顔輝く大津の教育

～「行動には目的があり、その目的にはさらに上位の目的がある」～ 教育長 島崎 輝久

皆さんは、「ジュニアリーダーの育成」を目標に様々な活動を展開されている「大津市子ども会育成連合会」という団体をご存じでしょうか。活動歴は30数年と古く、中でも最大の事業は、毎年、夏に国立若狭青少年自然の家で実施される「ジュニアリーダー研修会」です。今年も事前研修を受講した市内小学5・6年生50数名が、野外炊事やクラフト、キャンプファイヤーなどを楽しみに2泊3日のWAKASA2024に参加しました。



近年、社会の急速な変化と新型コロナウイルス感染症による様々な制限に伴い、ライフスタイルや価値観が多様化し、子どもの生活・行動様式も一変しました。例えば、子どもたちは自分のタブレット端末を使って学習し、必要な情報をすぐに入手できるなど、SNSの進展も相まって利便性が目覚ましく向上した一方、労せず情報が得られることやスマートフォンの長時間使用などで、実際に体験する機会、人と直接ふれあう機会が減るなど負の側面も指摘されています。

こうした状況の下、私は小中学生に、**他者の話や意見をしっかりと聴いて、自分でよく考えて、自分の思いをきちんと言葉や文章、時には音楽・美術・書などで表す、いわゆる「伝え合う力」**をしっかりと身につけてほしいと願っています。

8月19日の出発式、エールを送ろうと私も出席しました。式では、**青年リーダー（数名の大学生など）の代表が、自分たちの思いを留意事項とともに熱く説明し、小学生と行動をとるジュニアリーダークラブKIDS（キッズ）を中心とする約20名の中高生は、班付きリーダーとしてやる気満々、会場は熱気に包まれていました。**指導者（教員もおられます）の支えは必要ながら、**異年齢の青少年が集まり、自分たちで企画したプログラムを、自分たちの行動で成功に導こうとしている・・・**、ここ暫く見失いかけていた光景と若者の熱い思いに、たいへん感激したひと時でした。

ところで、青年リーダー代表を担った大学2年のIさんは、令和2年3月、最初の緊急事態宣言下に、私が卒業証書をお渡しした一人です。先日、この件で話をしました。

私：いつから「子ども会」に携わっているの？

Iさん：小学生で若狭へ行った時にリーダーに憧れて、自分もそうなりたと思いました。それで、中学生からKIDSに参加しています。

私：2泊3日はうまくいきましたか？小学生も喜んでいただいでしょうね！

Iさん：高校時代はコロナで何もできなかったのですが、自分として大きな研修会は初めて。**でも、接し方次第で表情が変わっていくのがわかります。ていねいに教えると、小学生も応えてくれて・・・自信がついたのか3日目はみんな笑顔いっぱい、僕もとっても嬉しかったです。**

私には、Iさんがとても頼もしくまぶしく感じられました。

市立小中学校では、子どもの思いや夢を学校・地域・家庭が連携して実現させていく「学校夢づくりプロジェクト」を令和3年度から推進し、実践を通して子どもの主体性を育むことがねらいのひとつです。時おり、**行為・行動のみに主眼が置かれ、どこまで子どもたちに響いているの？**という事例もみかけののですが・・・**私たちの行為・行動には、必ず、その目的があります。その行動の意義を発達段階に合わせて子どもにも理解させ、子どもが取り組んだ内容を価値づけることが、自己有用感を育み、意欲を湧き起こし、ひいては子どもの成長につながる**のではないかと私は考えています。

自分を磨く絶好の機会を得た小学生、リーダーとして「子どもが変わる」ことを知ったIさんたち・・・皆さんが、今後、さらに成長され活躍されることを大いに期待しています。

令和6年度 夏季実施の研修の様子をお伝えします！

今年度の夏季研修も、保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の各校園のみなさまに幅広く受講していただきました。「学び続ける教職員」でありたいというそれぞれの願いで、全29講座を開催し、のべ 2,193 名の積極的なご参加をいただきました。一部を紹介します。

教職員の心と技を磨く研修 第2回

講師：三遊亭 わん丈

8月1日

江戸落語家

於：生涯学習センター

テーマ「一人で大勢に話すための話芸『落語』」

ご自身の実体験を元に、「落語」も交えながら、話すときの間、目線の使い方、声量の工夫など、人前で話をする上で大切なことを教えていただきました。後半は、質疑応答の時間を取ってくださいました。受講者の知りたいことに答えながら、話をするプロとしての心構えなども教えていただき、「心と技を磨く」ことができました。

○受講者の感想

- ・ 話芸のことや、仕事に対する姿勢や新しいことにも挑戦されているわん丈さんのお話から学ぶことが多かったです。間の取り方や子どもへの声かけ、何かを大きく見せたいときは周りを小さく見せることなど、大変参考になりました。また、アウトプットしながらインプットするという話から、常に学び続ける姿勢が大切だと感じました。
- ・ 「自分が聞き手側だったら…という気持ちを忘れない」とおっしゃったことが心に残りました。どうしても伝えたいことばかりに頭がいつってしまうので、改めて初心に戻りたいと感じました。そして、「ものすごく稽古をしてアドリブっぽく話す」こと。これも授業をぶっつけ本番をするのではなく、シミュレーションや一度板書をするなど、できることを少しずつやってみたいと思いました。

教科別合同研修

8月6日 於：滋賀大学教育学部附属中学校

中学校初任者・2年次・3年次・臨時講師を対象に、附属中学校で各教科別の研究会を行いました。グループに分かれて、各自が実践事例を持ち寄り、うまくいったことだけでなく、課題として挙げられたところについて、意見を交流しました。その後、附属中学校の先生方から「主体的・対話的で深い学び」の実現や各教科での授業づくりで意識すべきポイントなどを指導助言いただきました。

○受講者の感想

- ・ 生徒が「主体的・対話的で深い学び」をするためには、教師の工夫が必要であり、その中で最も大切なのは、「課題設定」であると考えました。課題に対して、協働し、対話的に解決するその流れが成長に必要であり、教師も正しく評価することが求められていることをさらに感じ、これから自分自身も学び続ける必要性を感じました。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために探究のプロセスを意識するとともに、繰り返すことでそのレベルを高めていきたいです。子どもの対話機会については、ただ投げるだけでなくメタ認知的問いかけも活用していきたいです。また、自分が中心になる際のファシリテーションについても、ただガラガラと話さないように、技法についても考えていきます。



教職6年次研修、若手教員の生徒指導力向上研修

講師：仲島 正教

8月22日

教育サポーター

於：生涯学習センター

テーマ『あーよかったな 先生になって～教師のやりがいと子どもたちの笑顔～』

教職6年次までの若手教員を対象に、多くのご経験に基づいた実践的なご講話をしていただきました。たくさんのキーワードと児童や保護者とのエピソードを通して、教師という仕事のやりがいや学級経営における大切なこと、子どもに教育的愛情を注いでいくことの大切さについて教えていただきました。

○受講者の感想

- ・ 大変なことや理不尽なことに目を向けて文句を言うのではなく、教師でいるのならば子どもの未来を応援できる存在でいられるよう、子どものためにできることを探そうと思います。すぐに使える技や具体的なエピソードを聞かせていただき、心に響きました。指導要領などの学びも大切ですが、6年目で改めて大切なことに気付くことができました。



新規採用教員研修（幼・こ）・初任者研修（小・中）

葛川少年自然の家 所員

7月31日 於：葛川少年自然の家

幼稚園・こども園・小学校・中学校の初任者が、葛川少年自然の家で野外活動実習を行いました。午前は「野外活動における危険と熱中症予防」の講義と命の学習を、午後はウォークラリーを実施しました。ただ体験をするだけでなく、指導者として何に気を付けなければいけないのか、どんなねらいをもって野外活動を仕組むのかなどを考え、終始教師の目線で活動しました。グループ学習では、実体験をもとに安全指導や環境学習について他校種の教師と意見を交流することで、様々な視点での学びについて考えることができました。



○受講者の感想

- ・ 生きている命を自分の手で捕まえて、「頂く」という貴重な体験をしました。体験を通して、子どもたちの心に刺激や葛藤が生じる。そのときに、子どもたちにどんな声かけや指導ができるかが大切だと感じました。
- ・ 子どもたちが取り組む活動の一つ一つに意味とねらいを持たせるように意識して日頃の指導を行っていかないといけないと思いました。子どもに響くような活動設定をするだけでなく、教師目線で安全管理を行うという、両方の目線から活動を組み立てていきたいと思います。
- ・ 校種が違くと、考えが異なることを実感できました。特に、幼稚園の先生は、幼児の目線に立つために、ウォークラリー中にしゃがんでいて、自分にはない発想だったので驚きました。また、五感を使って自然を味わい、体験ができるように工夫したいと思いました。

教職4・5年次研修、若手教員の生徒指導力向上研修

講師：伊藤 美奈子 奈良女子大学 教授

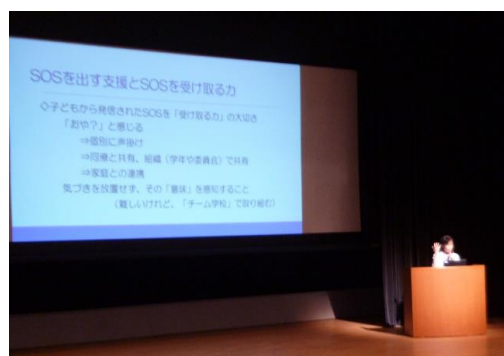
8月2日 於：生涯学習センター

テーマ「不登校の現状と不登校支援の方向性」

教職4・5年次を含め、教職6年次までの若手教員を対象に、不登校の現状と不登校支援の方向性について、事例をもとにご講義いただきました。後半ではディスカッションがあり、他の人の考えを聞くことや自分の言葉にすることで、理解が深まっていきました。児童生徒や保護者の思いに寄り添い、「ロープの先」を持つように、引っ張りすぎず、離し過ぎない関係を作っていくことなど、不登校支援における学校や教職員の役割について教えていただきました。

○受講者の感想

- ・ どうしても担任をしていると、学校に来てほしい思いが強くなり、焦らせる声かけをしてしまいそうになりますが、子どもに合ったアセスメントやゴールを意識して関わりたいと思いました。そのためにも、自分一人だけでなく、学校がチームとして多面的に関われるよう、周りの先生との情報共有も大切にしていきたい。
- ・ 本人も何が辛いのか明確にできない、したくないということがあります。してほしいこと、したいことがないわけではないけれど、言葉にできない。そんな子どももロープを持ち続けられる安心できる関係や環境づくりを心がけたいです。たるんでいないか、引っ張りすぎていないか、この考え方を知れて良かったです。



マネジメント研修・主幹教諭研修

講師：久米 昭洋

7月24日

常葉大学大学院 教授

於：生涯学習センター

テーマ「人を育て、組織を育てるコーチング」

管理職として必要なコーチングの考え方や価値を学び、マネジメントの質の向上を図ることができました。使命感をもって自発的に自分の力を発揮しようとする貢献意欲の高め方や傾聴の大切さ等について演習を通して学びました。

○受講者の感想

- ・ 傾聴のスキルを実際に体験したことで、話す側の話しやすさや安心感を学びました。教頭として、保護者対応や教職員との対話の中で活用していきたいです。
- ・ 学校の教職員の心理的安全性を保障し、一人ひとりの力が生かされる生産性の高いチームを目指し、高め合える集団を作りたいです。

ミドルリーダー研修

講師：今井 弘樹

8月23日

元滋賀大学教職大学院 教授

於：教育センター

テーマ「学校組織マネジメント・カリキュラムマネジメント」

今日までの大きな教育の流れを振り返ることで、今後の教育の見通しを持つこと、広い視野で学校全体を考えていくことなど新たな視点や自分自身の立ち位置について考えることができました。

○受講者の感想

- ・ 時代の流れや社会的な状況をしっかり捉えて校務にあたりたいと思います。また、教育活動の目的を共有し、校内外のリソースを生かした運営ができるよう、課題意識をもって取り組みたいと思います。
- ・ 人と関わるとき、相手を大切にすることが不可欠だということを再認識しました。相手をリスペクトすることを忘れず関わっていききたいです。

特別支援教育研修 第1回

通級指導教室教諭

7月23日 於：生涯学習センター

テーマ「“読む力”のアップは学力アップへの近道 Part 6

小学校低学年の読み書き指導のポイントはここ！

～グループワークで実践力アップ～

大津市の通級指導教室の先生方に、読むことの重要性や特殊音節の指導方法についてご講義いただきました。全体での講義のあと、グループに分かれて、すぐに実践できるような歌やミニゲームをわかりやすく教えていただきました。少人数でのグループワークは、実際に言葉遊びを体験することができ、発言もしやすく、大変よい学びの機会となりました。

○受講者の感想

- ・ 「たくさん書くのではなく、動作化、視覚化を使って、楽しく学ぶ」ことの大事さを改めて知りました。今、元気いっぱい1年生を担当なので、体を動かし、学びを体で覚えていてもらいたいと思います。また、拗音の指導の難しさを感じていましたので、拗音体操を早速やってみたいと思います。
- ・ 「すらすら読む」ことができない体験は貴重でした。「分かりたい!」と思っても、時間内で読むこともできず、少し気分も悪くなるような感じで、想像を超えるしんどさでした。読むことにしんどさを抱えている子が、いかにエネルギーを使っているか少しわかりました。



若手教員育成学校園訪問を実施しています！

経験年数が2～5年次の先生方を対象に、幼稚園、こども園、小学校、中学校からの要請に応じて学校園訪問を実施しています。さらに初任者を含めて6年次以降の先生方（臨時的任用を含む）についても校園からの要請があればお受けしています。

若手の先生方の授業を参観させていただき、指導内容や指導方法についての助言を行ったり、学級経営等に関する悩みを聞いたり相談を受けて一緒に考えたりすることで若い先生方を支援しています。学校園訪問の要請は年間を通して受け付けています。また複数回の訪問要請にも応じていますので、教育センター担当までご連絡ください。

大津のキラリ☆みつけた



2024年4月1日、63名の新規採用者が、幼稚園・こども園、小学校、中学校、それぞれの職場で、大津市の教員としてのスタートをきりました。その喜びを胸に、誇らしげで、どの教員も同じように輝いていました。大津の宝です。

教育センターでの研修に、少し疲れた顔でやってくる先生もいます。それでも、同期から声をかけられ、パツと表情が明るくなります。仲間とのコミュニケーションは力になります。

学校を訪問して、授業を参観する機会があります。同じように見えていた先生方の個性が見えてきます。準備周到な先生、指示が明確な先生、臨機応変な対応をする先生、子ども達のつぶやきを拾える先生…。教室には、たくさんの先輩が駆けつけ、少し心配そうな表情で見守ってくれます。授業が終わると、すかさず「よかったよ。」「お疲れさん。」と、後輩を労います。同僚からのエールは、授業者の心を温かくします。

長い夏休みに、さまざまな研修を受講し、たくさんの先生方と話をしたりフレッシュできたのでしょう。「2学期もがんばれそうです。」笑顔がキラリでした。

第75回

大津市児童生徒科学作品展並びに発明工夫作品展を開催しました。

9月7日(土)～8日(日)に大津市生涯学習センターにおいて、「第75回大津市児童生徒科学作品展並びに発明工夫作品」を開催しました。市内小・中学校からは科学作品168点、発明工夫作品25点が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろいで、会場に訪れた人たちは、一つ一つの作品を丁寧に見ておられました。この作品展が、子どもたちの科学的な探究心の高まりにつながる機会になればと願っています。



貸出図書の利用

「みんなの学校」が教えてくれたこと

学び合いと育ち合いを見届けた 3290 日



大阪市立大空小学校

初代校長

木村 泰子 著

小学館

「支援する子は、日々変わる」という意識を持ち、地域の方々の力も借りながら、すべての教職員で子らを育て、「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」。これが、大空小がめざしたものです。「おれって、こんなに大事にされていたんやな」というレイの話。大空小にある「たった一つの約束」とヒロとの話。「おれ、先生になろうかな」というノリの話。さまざまな個性を持つ子ら一人ひとりと向き合った木村校長先生と先生方の記録が丁寧に綴られます。「そこで学ぶ子どもが、心からそう言える学校にすること」という言葉が胸を打ちます。私たちの「あした」の実践に活かせるヒントがきっと見つかるはずです。